

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植水中】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全学年とも数学の平均正答率が、市の平均正答率よりも3ポイント以上低く、数学の力を身につけることが本校の課題であると考えられる。これらを改善するために、次年度以降も「スタディサプリを活用した朝学習」に取り組んでいく。また、現在の活用の仕方を見直して生徒の学力が身につく取り組みを考えていく。
思考・判断・表現	昨年度の分析から、数学の「図形」の領域では数値の改善が見られた。そのため次年度も継続して、数学において少人数による指導を実施し、思考力・判断力・表現力の基礎となる力の育成・向上を図る。また、今年度の平均正答率が低かった数学の「関数」の領域を市の平均正答率に近づけていく。
主体的に学習に取り組む態度	本校は、生活習慣等に関する調査において、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」という質問に対する肯定的な回答が全学年で市の平均を下回っていた。そのため、今後もスタディサプリの結果を記録シートに記入したり、学習のあゆみを活用したりしていく。また、教員間で意見を出し合い、現在の取り組みの方法をより良いものに改善していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	さいたま市学習状況調査において数学の「数と式」の校内平均点を市内平均点まで向上させる。	⇒ 「スタディサプリを活用した朝学習」や「授業開始時に計算問題の実施」を重点的に行う。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査において数学の「図形」の校内平均点を市内平均点まで向上させる。	⇒ ・数学の授業において少人数による指導を実施し、思考力・判断力・表現力の基礎となる力の育成・向上を図る。 ・ICT機器を活用し、実感をともなった理解につながるよう図形の授業を展開したり、思考の共有化を図ったりする。
主体的に学習に取り組む態度	・学校独自アンケートで、「朝のスタディサプリの取り組みで学習への関心が高まったか」の項目において肯定的な回答を80%以上にする。 ・さいたま市学習状況調査「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」の項目で肯定的な回答を50%以上にする。	⇒ ・毎週水曜日に朝学習としてスタディサプリに取り組み、結果を記録シートに記入し、自身の正答率を確認できるようにし、自主学習を促す。 ・「学習のあゆみ」を活用し、テスト前や長期休みに学習計画を立て、自主学習ができるように促す。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	「スタディサプリを活用した朝学習」を毎週水曜日に行った。しかし、さいたま市学習状況調査において数学の「数と式」の校内平均正答率を市内平均正答率まで向上させることはできなかった。中1、中2のどちらも、市の平均正答率を3ポイント以上下回っていた。	C
思考・判断・表現	少人数指導の実施や、ICT機器を活用した授業を展開することができた。さいたま市学習状況調査において数学の「図形」の校内平均正答率を中1では市内平均正答率まで向上させることはできなかったが、中2は、あと0.1ポイントまで迫ることができた。	B
主体的に学習に取り組む態度	スタディサプリの記録シートや学習のあゆみを活用することで、生徒自身で学習計画を立てたり振り返りをしたりできるようにした。学校独自アンケートで、「朝のスタディサプリの取り組みで学習への関心が高まったか」の項目において肯定的な回答は、中1で約84%、中2で67%、中3で77%であった。中1は目標数値を達成することができ、中3はわずかに届かなかった。さいたま市学習状況調査「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」の項目で肯定的な回答が50%を超えたのは、中1と中3のみであった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語や数学の「知識・技能」は、全国平均よりも低い結果であった。特に、数学の「数と式」の領域では全国平均から大きくマイナスとなってしまっていた。昨年度の課題である計算力に関して、今後も「スタディサプリ」等を活用して、重点的に取り組む必要がある。
思考・判断・表現	国語や数学の「思考・判断・表現」は、全国平均よりも低い結果であった。特に、国語の「読むこと」に関しては大きく下回っていた。読解力は他教科にも大きく影響するため、国語だけでなく全教科で指導をしていく必要がある。しかし、数学の「データの活用」の領域では、全国平均を大きく上回っているため、今後もICT機器を活用した授業を続けていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	アンケートにおいて、「国語の勉強が好きだ」の項目において、肯定的な意見が市や全国よりも圧倒的に多かった。国語を好きな生徒は多いため、それをきっかけに平均正答率を伸ばしていけるようにしていきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	国語の「書くこと」、社会の「世界の様々な地域」、理科の「エネルギー」「粒子」「生命」の領域は、市の平均正答率を3ポイント以上上回っていた。しかし国語の「読むこと」、数学の「数と式」「関数」の領域では、市の平均正答率を3ポイント以上下回っていた。朝読書やスタディサプリなどの全学年で取り組んでいる分野が、生徒の学力に結びついていない可能性が考えられる。
中2	理科の「生命」「地球」の領域は、市の平均正答率を3ポイント以上上回っていた。しかし国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」、数学の「数と式」「関数」、社会の「世界と日本の地域構成」「歴史との対話」の領域では、市の平均正答率を3ポイント以上下回っていた。中1と同じ課題が見受けられる。また、多くの領域で市の平均正答率を下回っているため、基礎・基本の定着が急務だと考えられる。
中3	生活習慣等に関する調査において、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」という質問では、58%程度の生徒が肯定的な回答をしていた。市の平均が60%を超えているため、学習のあゆみ等を効果的に使って行く必要があると考えられる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし